

## 令和3年度第2回「健康食品」による健康被害事例専門委員会からの報告

## 1 開催日時等

令和4年1月17日（月曜日）午後2時から4時まで（オンライン開催）

事務局設置場所：健康安全研究センター6A-6C 会議室

## 2 議事及び報告事項

## (1) 議事：事例の検討について

都医師会、都薬剤師会を通じて、令和3年5月までに報告され追加調査を依頼していた6事例及び令和3年6月から11月までに収集した3事例の計9事例について検討を行った（9事例中には2製品を同時に摂取していた事例があり、症例数としては8となる。）。

検討の結果、緊急調査等が必要な事例はなかった。6事例（肝障害2、吐き気2、皮膚症状2）について、都医師会、都薬剤師会に対して情報提供の協力を依頼することとなった。

なお、1事例（動悸）は原疾患の影響が考えられること、2事例（下痢2）は、患者の体質等製品以外の影響も考えられることから、蓄積していくという結論になった。

また、健康食品の利用については、主治医と相談することが重要であること、身体に何らかの症状が生じた際には、摂取を中止することが重要であること、健康食品の利用によりかゆみ等の皮膚症状が生じることがよくあることから、摂取した健康食品について記録に残すことが、原因製品の特定のために重要であること、との意見があった。

## (2) 報告：東京都医師会及び東京都薬剤師会への協力依頼について

（令和3年度第1回「健康食品」による健康被害事例専門委員会終了後の資料送付）

本年度第1回当専門委員会での検討結果、情報提供すべきとされた事項（医薬品を服用している人の健康食品利用、複数の健康食品の同時摂取、高齢者による健康食品利用、健康食品利用による重篤な健康被害）について、都医師会、都薬剤師会に対して協力を依頼した旨、事務局から報告された。

## (3) 報告：収集事例の集計結果について

平成18年7月1日から令和3年11月30日までに収集した事例の集計結果について、下表（抜粋）のとおり、事務局から報告された。

健康食品との関連が疑われる健康被害事例の集計結果（抜粋）

ア 収集事例の内訳

医師会・薬剤師会の別	報告数（件）	患者数（人）
医師会	254	181
薬剤師会	163	151
消費者センター※	3	3
合計	420	335

※東京都消費生活総合センターについては、分析・評価の依頼のあった事例について、平成 30 年 7 月から「健康食品」による健康被害事例専門委員会の分析・評価の対象としている。

イ 利用目的の年代別分布（複数報告あり）

	ダイエット・美容	便秘	婦人科疾患改善	強精	血流改善	栄養補給	腰痛・関節痛	血圧改善	血糖値改善	肝機能改善	美肌	免疫賦活	健康維持・健康増進	病気の改善	病気の予防	美容	バストアップ	筋肉増強	不明・記載なし	年代別患者数
10代	2				1	2													2	7
20代	19		1	1		2					2		1	4		4	3		18	55
30代	16				1	5					5		4	1		7			17	56
40代	12	1	2	1	1	2	2	1	1		1		6	3	1	5			17	56
50代	9	2				22	13		1	1	2	2	8	2	2	4			33	101
60代	8	3	1	1	3	10	16	4			1	2	15	7	1	1		2	30	105
70代	2	3	1		3	13	25	3	2	1			11	5	1			2	38	110
80代	3	3			2	10	12		3	1	1		3	2		3			22	65
90代						1	1							1					2	5
不明・記載なし	2	1				4			1						1	1			6	16
合計	73	13	5	3	11	71	69	8	8	3	12	4	48	25	6	25	3	4	185	576

- ・ダイエット・美容は 20～40 代、栄養補給及び腰痛・関節痛は 50 代から 80 代、健康維持・健康増進は 60 代から 70 代が多い。
- ・年齢別では、50 代から 70 代の利用が多い。

ウ 性別割合

性別	患者数(人)	構成比
女性	247	73.7%
男性	84	25.1%
記載なし	4	1.2%

・女性 は 男性 の 約 3 倍 で あ っ た。

エ 医師の診察の有無

医師の診察の有無	患者数 (人)	構成比
有り	237	70.7%
無し	59	17.6%
不明・記載なし	39	11.6%
合計	335	100.0%

・医師の診察がない（又は不明）患者が約3割であった。

オ 基礎疾患の有無

基礎疾患の有無	患者数 (人)	構成比
有り	201	60%
無し	93	27.8%
不明・記載なし	41	12.2%
合計	335	100.0%

・基礎疾患のある人の事例は約6割であった。

カ 基礎疾患に対する治療薬の有無

基礎疾患に対する治療薬の有無	患者数 (人)	構成比
有り	151	75.1%
無し	14	7%
記載なし	36	17.9%
合計	201	100.0%

(N=基礎疾患のある201人)

- ・基礎疾患のある人の約7割5分が、治療薬と健康食品とを併用していた。
- ・これは患者数（335人）の約4割5分を占めていた。

キ 症状・異常所見等（複数報告あり）

症状・異常所見等	患者数（人）
皮膚症状（発疹・発赤・掻痒）	114
胃痛・胃部不快感・吐気	57
肝機能障害、肝機能検査値異常	43
血液検査異常(肝機能以外)	39
下痢・軟便	28
便秘	8
めまい・ふらつき	6
倦怠感	6
出血、出血傾向	6
頭痛	6
下腹部痛、子宮出血	2
その他	48
合計	363

(N=患者数 335 人)

- ・症状は「皮膚症状」が最も多く、次いで「胃痛・胃部不快感・吐気」「肝機能障害・肝機能検査値異常」であった。
- ・なお、症状・異常所見と製品との因果関係については、疑わしいものとして情報提供を受けたものであるが、確定された事例はなかった。

東京都食品安全情報評価委員会  
「健康食品」による健康被害事例専門委員会 委員名簿  
(五十音順・敬称略)

令和3年4月現在

No.	氏名	所属
1	○ 梅垣 敬三	昭和女子大学 食安全マネジメント学科 教授
2	小林 弘幸	公益社団法人東京都医師会 理事
3	千葉 剛	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 食品保健機能研究部 部長
4	松本 雄介	公益社団法人東京都薬剤師会 理事
5	水谷 太郎	地方独立行政法人茨城県西部医療機構 理事長
6	山口 正雄	帝京大学ちば総合医療センター 第三内科（呼吸器）教授
7	山口 隆司	一般財団法人食品産業センター 海外室次長

(○) 座長